

頭蓋底腫瘍センターにおける歯科口腔外科の役割

—術前から術後までのシームレスなサポートによる QOL 向上—

頭蓋底腫瘍は、脳や重要な神経・血管が密集する解剖学的に極めて複雑な領域に発生するため、高度な多職種連携が不可欠です。その中で顎顔面・口腔領域を専門とする歯科口腔外科は、安全な周術期管理と術後の機能回復を支える役割を担っています。

当センターにおける歯科口腔外科の役割は、大きく「術前」と「術後」の 2 つに分けられます。

1. 術前:安全な手術のための環境整備(周術期口腔機能管理)

長時間に及ぶ頭蓋底手術では、口腔内細菌による誤嚥性肺炎や術後感染症の予防が極めて重要です。

口腔内環境の最適化

術前に専門的口腔ケア(歯石除去、専門的クリーニング、感染源となる歯の評価と処置など)を行い、口腔内細菌数を減少させることで、術後合併症のリスク低減に貢献します。

術後機能を見据えた補綴治療計画

上顎や口蓋に欠損が生じることが予測される症例では、術後早期から食事や会話を可能にする顎補綴装置(オブチュレーターなど)の作製を見据え、術前から型取りや設計を行います。これにより、術後の機能回復を円滑に進めることができます。

2. 術後:機能回復と QOL 向上への継続的支援

頭蓋底腫瘍治療では、根治性の追求とともに、患者さんがその人らしい生活を取り戻すことが重要です。

咀嚼・嚥下・構音機能の回復

顎や口腔に欠損が生じた場合には、顎補綴装置の作製・調整を行い、「食べる」「話す」といった日常生活に不可欠な機能の回復を図ります。

長期的な口腔管理

術後に放射線治療や薬物療法が行われる患者さんでは、口腔粘膜炎、口腔乾燥、放射線性顎骨壊死などの合併症への対応が必要となります。歯科口腔外科が継続的に介入することで、治療完遂と生活の質の維持を支えます。

おわりに

京都大学医学部附属病院頭蓋底腫瘍センターでは、各分野の専門医が密接に連携し、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供しています。歯科口腔外科はその一員として、合併症の予防から術後の機能再建、長期的な口腔健康管理までを担い、治療成績の向上と QOL の改善に貢献しています。